

ごちそうさま

壇をお迎えするんだと言い出しました。でも、夫は今までは全くの無宗教で、仏壇を拜むような人間ではないのです。仏壇を買ってどうするのと尋ねたら、毎日家族で手を合わせて、そして一家で仲良く暮らしていくんだ、と言うのです。私たち夫婦は大概意見が合わないのですが、ここだけは意見が一致して、お仏壇をお迎えすることにしました。」ということでした。

私は、この話を聞いて、なんていい話なんだと思いました。この家族は、きっと幸せに暮らしてゆくんだろうな、と感じました。少しでもこんな家族が増えたなら、夫婦で殺し合い、親子で殺しあうような事件も減るのではと思います。

仏さまに毎日手を合わせることは、人として大切な「やさしさ」や「まごころ」、「きよらかさ」を確認すること、そして、そうならない自分を謙虚に反省することなんだなと思いました。そして、仏さまとは、その「まごころ」の象徴として、毎日手を合わせているんだなあと、気づかせてもらった気がします。

みなさんのご家族はお仏壇をお持ちですか？ 勧めてみてくださいね。

※食中毒防止のため、早めにお召上がり下さい。  
西教寺進徳仏教婦人会  
私たちとっしょにお聴聞しましょう

ごめんなさい・ありがとう

# 自他不二

私の生命と他の生命は別ではないということ。つまり、他人の幸せを抜きにして、私の本当の幸せは成り立たない、そこに気づけよという釈尊の教え。

【食前の（じゆば）】

○み仏（みほとけ）、みなさまのおかげにより、この御馳走（ごちそう）を恵（めぐ）まれました。（今回の時回会者発言）


●深く（ふかく）感謝（かんしゃ）を喜び（よろこ）び、ありがとう（ありがと）うございました。

【食後の（じゆば）】

○尊（うん）におめい（ごめい）みこより、おごちそう（ごちそう）いただき（いただき）ました。（今回の時回会者発言）

●おかげで、御馳走（ごちそう）やま（やま）りました。

合 掌



その姿を見て、私はハッとさせられました。「私たちは何ということをしてしまったのだろう、これ以上やってはいけない。」そう思ってケンカをやめました。

ここから後は、おつれあいが仰ったことです。「夫は、このことがあって以来、お仏

いただきます

10月の永代経法座で聞いたお話です。安佐北区の団地に住む若い夫婦から、お仏壇をお迎えするのでお参りしてくださいと電話があり、あるお坊さんがお参りしたという話です（あるお坊さんとは武田公丸先生ですが、お話をくださったのは築田哲雄先生です）。

お参りしてみると、小さなお仏壇がお迎えしてあり、おつとめの後、お茶を飲みながらお仏壇をお迎えした理由を尋ねたということです。すると夫が、「恥ずかしい話で言いたくないのですが」と言いながら、次のような話をされたそうです。

実は、私たちには二人の子供がいて、お寺の幼稚園に通っています。ある日の晩、ちょっとしたことから夫婦ゲンカになり、勢いがついて大ゲンカになってしまいました。子供らは「ケンカをやめて」と号泣するのですが、お互い退くに退かれず止めることができませんでした。とうとう子供らは、泣きながら隣の部屋へ行ってしまいました。それでもケンカを続けていましたが、ふと気になって隣の部屋へ行ってみました。すると子供らが（きっとお寺の幼稚園で描いたのでしょう）、仏さまの絵を机の上に置いて、手を合わせて拜んでいるのです。

もったいない

